

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和 8 年度第 1 回相模原市文化振興審議会		
事務局 (担当課)		文化振興課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 0 2 (直通)		
開催日時		令和 8 年 7 月 3 1 日 (火) 1 0 時 0 0 分 ~ 1 2 時 0 0 分		
開催場所		相模原市役所 会議室棟 第 1 会議室		
出席者	委 員	1 0 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人 (別紙のとおり)		
	事務局	5 人 (市民局スポーツ・文化担当部長、文化振興課長、他 3 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		(1) 文化振興プラザ事業の進捗について (2) 次期さがみはら文化芸術振興プラン策定にむけて		

議 事 の 要 旨

審議会の冒頭、本日の会議について、出席委員数が定足数に達していることを確認した。

主な内容は次のとおり。

議題

(1) 文化振興プラザ事業の進捗について

事務局から説明を行い、質疑応答が行われた。

(井部委員) 私ども文化財団では、市から委託を受けて市役所ロビーでの「街かどコンサート」を実施している。その中で、市役所窓口をご利用された方から、音の大きさなど共用スペースの利用方法などについてご意見をいただいたことがあり、それがきっかけで1年間（市役所ロビーでの）ピアノの演奏をやめるといったことがあった。そのため、視察結果の話を伺い、利用者の気持ちに配慮できるような空間づくりは大切だと感じた。窓口で話をしている際にも自然と目に入り、気軽に利用できるような環境になるとよいと思うが、大宮区役所の事例は区役所の窓口とスペースが非常に近接している点が少し気になった。その点では、中野区役所の事例のような配慮は参考になると感じた。

(友田委員) この事例の写真について、南区合同庁舎でもこのようなイメージで進めていくという考えなのか。

(事務局) 具体的なイメージはまだ決まっていない。まずは、どのような事例があるのかを知るために視察を行っており、この事例をそのまま取り入れるという考えではない。今後、市民の皆様から実際の活動内容を伺いながら、「どのような活動をしたいのか」という点についてヒアリングを行い、それを踏まえてイメージづくりを進めていきたいと考えている。

(友田委員) こちらの事例を見ると、かなり広いスペースがある。南区では、ここまでのスペースを確保することは難しいのではないかと思いますので、実際にはこれとは違った形になるのではないかと感じている。また、このような展示スペースがあれば、特に美術系の方々にとって、多くの方に作品を見ていただく機会になるので、そのような場ができることは良いことだと思う。

(金子(光)委員) 南区合同庁舎の基本理念にある「開かれた交流スペース」という考え方は、非常に重要だと思う。現在、相模大野中央公園周辺では新しいまちづくりが進んでおり、新しい広場や高層マンションなども整備されている。そうした場所と連携しながら、アートを通じて人の流れを生み出すことができるのではないかと思います。例えば、今年からアート市やライブアートなどを通じて、市民や障害のあるアーティストが交流する取組が始まる。そこで制作された作品が、その場限りで終わるのではなく、将来、文京地区というエリアで展示されることで、

地域と活動が重なっているというつながりができるようにしていただきたい。

また、展示については、展示方法が管理的になり過ぎることを懸念している。「ワイヤーで展示してください」「この方法で展示してください」といったルールを細かく定め過ぎてしまうと、活動の自由度が損なわれてしまう。そうではなく、市民やアーティスト、障害のあるアーティストも含めて、互いに協働しながら活動できる場にしていただきたいと思います。相模原市には、そのような新しい取組を進めていく可能性があると感じており、地域で行われている活動が合同庁舎の中でも見える形となり、市民にもその活動が伝わることで、さらに文化活動の輪が広がっていくのではないかと。さらに、区役所の中だけで完結するのではなく、屋外でのアート活動などとも連携することで、相模原の特徴ある文化振興になっていくのではないかと。

(中村委員) 資料の写真を拝見したが、サークルの展示作品が仮設の展示パネルに掲示され、通りがかった方が気軽に鑑賞することができる点は、とても良い取組だと思った。一方で、少し気になったのは作品の安全管理である。私が所属している相模原芸術家協会でも展覧会を開催しているが、その際には必ず当番を配置し、作品の管理や来場者への対応を行っている。このようなオープンスペースで展示を行う場合は、常時監視員を配置するのは堅苦しいかもしれないが、こういう場を作る際には受付担当者が目を配りやすいようにしたり、防犯カメラを活用するなど、作品を安全に展示するための配慮が必要ではないかと感じた。

(杉森委員) まだ具体的な整備内容は決まっていないとのことであるが、実際にどの程度のスペース、どのようなシチュエーションなのかで、施設の使い方は大きく変わらなう。大宮区の事例では、1階の入り口から入り、誰でも自然に立ち寄れるオープンな空間であり、中野区の事例も、人が自由に行き来できる通路空間となっており、一般の方が気軽に立ち寄れる構造になっていたと思う。一方で、今回対象となる南区合同庁舎は、もともと庁舎として整備された建物のため、割と閉鎖的な建物であり、事例の建物とは構造が異なり、人が通り抜けていくようなものではない。事例としては良いものであるが、南区合同庁舎に近い条件の施設も参考にしながら検討した方が良いのではないかと。

今回ご紹介いただいた事例は、イメージを広げるという意味では大変参考になるものであるが、一方で、実際に整備を進める段階では、現実的な条件を踏まえて検討する必要がある。その場所の構造が音楽活動に向いているのか、美術展示に向いているのか、あるいは映像などに向いているのかといった視点も重要であり、その点も含めて今後検討を進めていただければと思う。

(齋藤委員) 非常に志の高い、魅力的な構想だと思う。ただ、集客という観点から考えると、施設の立地条件は非常に重要である。大宮図書館の事例は、図書館と一体となっていることで、土日でも多くの方が日常的に訪れ、自然と人が集まる環

境になっている。一方で、中央区だと市役所になるため、中野区の事例の方がイメージとしては近いように感じる。また、3区に作るのであればすべてを同じ考え方で整備するのではなく、それぞれの地域特性に応じたプランニングが必要と考える。

さらに、開設当初は利用者を増やしていくことが大きな課題になると思う。そのため、市の職員だけで運営を考えるのではなく、中野区のようにプロデューサーやマーケターなど、専門的な知見を持つ方の力を借りることも必要であり、職員と一緒に動いてそのノウハウを吸収することが重要である。立地で色々なことが決まってしまう、そのハードルは高いものであるため、開設から数年間は特に重要な時期として、専門家のノウハウを取り入れながら、職員も運営手法を学んでいくことが望ましいと考える。また、約10年後に南区合同庁舎が完成する予定とのことであるが、公民館は比較的高齢の利用者が多い状況であり、10年後には利用者層や社会状況も変化している可能性があるため、現在だけでなく、将来の利用者像も見据えながら施設計画を進めていただきたい。

(友田委員) 現在の南市民ホールを解体するということが、どれくらいのスペースが使えるのか分からず、具体的な施設のイメージも想定できないため、意見を述べるのが難しいものと感じる。

(事務局) 資料(南区合同庁舎のあり方基本構想概要版)13ページ、14ページに改修イメージを掲載しており、14ページでは、南市民ホール跡地活用のモデルプランを2案お示ししている。現時点では、どちらかに決定しているものではなく、今後検討を進めていくためのイメージとなっている。また、文化振興プラザ以外にどのような行政機能を配置するのかについても、現在検討を進めている。既存施設を活用しながら、文化振興プラザの機能を十分に発揮できるよう、今後も検討を進めていきたいと考えている。

(鈴木委員) 工事費について、資料では現在の価格を基に試算されている。しかし、近年は資材価格や人件費が大きく上昇しているため、10年先を見据えると、さらに建設費が高騰する可能性があることから、その点は十分考慮していただきたい。また、各区に文化振興プラザを整備するのであれば、それぞれが独立して活動するだけでなく、イベントや展示などの情報を共有し、相互に連携できる仕組みがあると良いと思う。整備時期は異なると思うが、将来的には市全体で連携した文化振興につながることを期待している。

(山崎委員) 先ほどホールの話があったが、南市民ホールは、南区地域において重要なホールとして位置付けられていたが、今回、新しい施設へ更新するに当たっては、これまでのようなホール機能を備えた施設として整備するのではない、という理解でよろしいか。

(事務局) 南市民ホールについては、老朽化が進んでいることに加え、南区には相模

女子大学グリーンホールがあり、大ホール、多目的ホールなど、規模としては南市民ホールに近い施設がある。また、市内全体を見ても、市民会館、ほねごり杜のホールはしもと、もみじホール城山などがあることから、市全体の施設配置やバランスを考え、老朽化した施設をそのまま更新するのではなく、将来的な施設配置も見据えながら、他施設も含めて活用していただく、集約化という考え方で説明させていただいている。

(金子(朋)副会長) 例えば、新しい施設の中にホール機能を設けるという考え方はないということか。

(事務局) 本格的な舞台機構を備えた専用ホールというよりも、多目的に利用できる空間を想定している。例えば、展示にも利用でき、発表の場としても利用できるなど、多くの方に気軽に使っていただける施設として文化振興プラザを考えている。もちろん、絶対にできませんということではなく、南区の地域で活動されている皆様が、今後どのような活動をしていきたいのかを伺いながら、限られたスペースの中でどのような形が可能なのかを、一緒に考えていきたいと思っている。

(金子(朋)副会長) ホールが減るだけでも、使用者からすると他の施設利用の争奪戦になることを聞くため、何かしらの発表の場ができると良いと思う。

(杉森委員) 音楽と美術では、施設に求められる条件が大きく異なる。音楽は防音性能などが必要になり閉じられた空間であることのほうが望ましく、美術展示ではある程度クローズドはあるが天井の高さや壁面、空間の使い方が重要となる。一つの施設で全てに対応しようとする、それぞれが中途半端になってしまう可能性があるため、「多目的」という考え方だけではなく、実際に運営されている事例を参考にしながら、ある程度用途を整理した施設計画を検討した方が良いと思う。大宮図書館の事例を拝見した際も、音楽利用という観点では難しいと感じた。「多目的」という言葉を使いがちだが、用途をある程度整理した方が、結果として利用しやすい、利用率の高い施設になるのではないかと思う。

(齋藤委員) 先ほどのご意見はもっともだと思う。ただ、ブラックボックス型の閉鎖的な空間をイメージすると、「交流する」という文化振興プラザのコンセプトとは少し異なってくるように感じる。人が自然に行き交い、「何か音楽が聞こえるから少し立ち寄ってみよう」と思えるような空間の方が、この施設のイメージには合っているのではないか。多少音が悪くてもみんなで楽しみましようといったコンサートのような考え方であれば、多目的空間という方向性も一つの考え方だと思う。一方で音響設計は、厳密にやろうとすると音楽と演劇・落語などでも残響設計が異なる。どのような活動を重視するのかによって施設のイメージやイベント内容も大きく変わってくるため、十分な検討が必要だと思う。

例えば、ステージの後方に反響板にかわるようなものを簡易に設置するなど、工夫できることはある。ただ、「コンサートを開催したものの音が割れて全然ダメ

でした」ということになってしまうのは残念であるため、この施設でどこまで対応できるのかを、あらかじめ当たりをつけて整理しておくことが必要である。

(山崎委員) 先日、福島県へ行く機会があった。福島市では中心市街地の空洞化が進んでおり、大型商業施設の跡地活用として公共施設を整備する計画がある。しかし、建築費高騰の影響を受け、当初予定していた計画の見直しを余儀なくされ、床面積も大幅に縮小したと聞いている。今回の計画も完成まで10年ほどかかるということであるため、その間の社会情勢や建設費の変動などによって、同じようなことが起こる可能性もあるのではないかと感じた。

(田口委員) 私たちの活動では、屋内だけではなく、屋外やオープンスペースでも発表を行っている。そのため、閉鎖的な空間だけではなく、開かれた場所で活動できることも重要だと考えている。一方で、音楽、美術、舞踊など、それぞれの活動によって必要な環境は異なり、全ての分野に対応できる施設を一つで実現することは難しいと思うので、どの活動を重視するのかを整理しながら検討していただきたい。また、今後は高齢化が進む一方で、若い世代に参加してもらうための取組も重要であるため、現在の利用者だけではなく、将来の利用者も見据えた施設づくりをお願いしたい。

(金子(朋)副会長) 本日いただいたご意見を踏まえ、事務局において今後の検討を進めていただく。本議題は以上とし、次の議題へ進ませていただく。

(2) 次期さがみはら文化芸術振興プラン策定にむけて

事務局から説明を行い、質疑応答が行われた。

(金子(朋)副会長) それでは、このアンケート案につきまして、皆様からご意見をいただきたい。設問内容や表現、回答方法など、どのような点でも結構ですので、ご意見ををお願いします。

(友田委員) 活動や鑑賞を行っている分野に関する設問において「音楽」の選択肢があるが、その下に「合唱」という選択肢もあり、なぜ分けているのか。また、音楽の例示としてオーケストラとあるが、敷居が高いことから吹奏楽といった表現のほうが身近だと思う。そのほか、「文学」という選択肢について「小説」といった選択肢もあるなかで、何をイメージしているのか分かりにくい部分がある。

(事務局) 友田委員の指摘のとおりと感じる。なお、昔から実施しているアンケートであり、選択肢を設定した経過や過去の結果との比較などもあることから、残しておく必要性も含めて選択肢の見直しを検討していきたい。

(杉森委員) 設問の中に「映画」という項目があるが、現在は映像を取り巻く環境が大きく変化している。例えば、動画配信やインターネット上の映像コンテンツ、VR など、従来の映画という枠組みでは表現しきれない文化活動も多くなってい

る。そのため、「映画」という表現だけではなく、「映像」など、より広い意味で捉えられる表現にした方が、現在の実態に合っているのではないか。もちろん、あまり細かく分類しすぎると回答しづらくなるため、その点は配慮が必要だが、現代の文化活動を反映した設問にしていきたい。

(齋藤委員) アンケートについては、若い世代からどの程度回答を得ることを想定しているのか。一般的に、こうしたアンケートは年齢が高い世代ほど回答率が高く、若い世代の回答率は低くなりやすい。アンケートはもちろん重要だが、それだけでは十分に若い世代の意見を把握できない可能性がある。例えば、アンケートの最後に「追加のヒアリングに協力できるか」という項目を設け、希望者に連絡先を記入していただく方法もあると思う。また、資料には「若者主体団体へのヒアリング」が予定されているが、文化活動を行っている若者だけではなく、その友人を誘ってもらうなどして文化活動を行っていない若者を連れてきてもらい、インタビューのような形で率直な意見を聞くことも有効ではないか。活動している人、活動していない人、それぞれの立場から話を聞くことで、新たな気づきが得られると思う。

今回のアンケートは設問数も多く、回答する側としては少し負担を感じる。これまで実施してきたアンケートとの比較も必要なため、大きく設問を変えることは難しい事情も理解している。アンケート回答者の年齢の偏りを考えて、もう少し若者の意識も探るのであるなら、アンケートだけでなく、ヒアリングなど複数の方法を組み合わせて意見を把握することも重要だと思う。現在の若い世代も、10年後には生活環境が変わっている可能性があり、だからこそ、今この時点で何を考え、何を求めているのかを把握することは非常に重要である。今後も継続的に若い世代の声を聞く仕組みを検討していきたい。

(金子(光)委員) 先ほどの話とも関連するが、「文化芸術」の捉え方について少し気になっている。従来は、質の高い芸術作品を鑑賞したり、優れた文化芸術を提供したりすることが中心だった。しかし、現在はアニメや漫画、イラスト、映像制作、音楽制作など、自ら作品を制作し、SNS などを通じて発信する文化活動が広く行われている。そのような活動も文化芸術の一つとして捉える必要があるのではないか。文学、音楽、美術といった従来の分野だけではなく、新しい文化活動も含めて考えていくことが重要だと思う。「文化芸術は必要ない」という回答があったとしても、それは文化そのものを否定しているのではなく、従来の文化芸術のイメージに対する回答である可能性もある。そのため、我々も「文化芸術」という言葉の意味を改めて考える必要があると感じている。

これまでは、立派な施設を整備し、その中で文化芸術を鑑賞するという考え方が中心だった。しかし現在では、SNS や AI などの技術の発展により、個人でも音楽や映像を制作し、世界へ向けて発信できる時代になっている。文化活動の形は

大きく変化しているので、市の文化振興においても、その変化を踏まえた考え方が必要ではないかと思う。

(井部委員) 新しい文化活動についての話があったが、一方で、文化財団としては、質の高い文化芸術に触れる機会を市民へ提供することも大切な役割だと考えている。現在は東京一極集中のようなところがあり、東京へ行けば多くの文化芸術に触れることができるが、高齢化が進めばそこまで行くことができない状況が生まれてくることから、相模原市でも、身近な場所で優れた文化芸術を鑑賞できる環境を整えることは重要である。また、以前、他の文化財団の方から「文化の裾野を広げるためには文化の質を下げるのではなく、そこへ至るための橋や階段をつくるのが大切だ」という話を伺ったことがある。私もその考え方に共感しており、例えば、学校へ出向くアウトリーチ事業では、家庭の事情などによって文化芸術に触れる機会が少ない子どもたちにも、平等に優れた文化芸術の鑑賞や体験の機会を提供することができる。そうした取組も、市の文化振興において大切な役割であると考えている。文化芸術を身近に感じてもらう入口としては、新しい文化活動と従来の文化芸術の双方を大切にしていけることが必要ではないか。

アンケートの問 24 について、従来のプランの基本理念の説明では「文化芸術に触れることで心の安らぎや生活の充実がもたらされるまち」といった内容が示されているが、選択肢を見ると、その趣旨が十分に反映されていないように感じた。

「心の安らぎ」や「生活の充実」といった内容を回答の選択肢に加えてもよいのではないか。また、「地域活性化」という表現は少し行政的で、回答者には分かりにくい印象がある。「まちのにぎわい」など、より身近な言葉の方が回答しやすいのではないかと思う。

もう一点、問 15 について、「市主催のイベント・コンサート」と「民間主催のイベント・コンサート」を分けて質問しているが、回答する側からすると、その違いが分かりにくい場合があると感じる。例えば、文化財団が実施している事業は、市主催なのか民間主催なのか判断に迷う方もいるのではないか。これまでの調査との比較のために必要な設問なのかもしれないが、回答者が迷わず回答できるよう、説明を加えるなど工夫した方がよい。

(田口委員) アンケートの対象年齢は何歳以上を予定しているのか。

(事務局) 16 歳以上を対象として実施する予定としている。

(田口委員) 回答方法は紙だけなのか、スマートフォンなどからも回答できるのか。

(事務局) 紙による回答と、オンラインによる回答の両方を予定している。

(山崎委員) アンケートは 25 問あるが、それぞれの設問に選択肢も多く、回答する側としては少し負担が大きいように感じた。回答率を高めるためには、できるだけ回答しやすいアンケートにすることが重要だと思う。例えば、選択肢を整理したり、一部を自由記述としたりするなど、設問構成を見直すことも検討していただ

ければと思う。また、問 24 については、現在の選択肢だけでは回答の方向性がある程度限定されてしまう印象がある。自由記述欄を設けるなど、回答者が自由に意見を書ける工夫があってもよいのではないかな。

もう一点、情報発信について、現在は X よりも、Instagram や TikTok を利用している若い世代が多くなっている。若い世代への情報発信を重視するのであれば、そのような媒体の活用も積極的に検討していただきたいと思う。

(中村委員) アンケートとは少し離れるが、資料 2 の 1 ページにある「ホームタウンアーティストの認定」について伺いたい。今回の資料で初めて知ったが、第 1 号として芝野虎丸棋聖が認定されているとのこと。この制度を設けた経緯や、第 1 号として芝野虎丸棋聖を認定した経緯について教えていただきたい。また、この制度は市が候補者を選定して認定する仕組みなのか、それとも今後、公募などを行う可能性があるのか、その点についても伺いたい。

(事務局) ホームタウンアーティスト認定制度は、市にゆかりがあり、市内外で活躍されている方を認定し、市民、特に子どもたちに夢や希望を持っていただくことを目的として創設した制度であり、第 1 号として芝野虎丸棋聖を認定させていただいた。認定に当たっては、ご本人に制度の趣旨をご説明し、ご理解・ご協力をいただいた上でお願いしている。制度は令和 7 年度に開始したばかりであり、今後の運用や認定のあり方については、事業を進める中で検討していきたいと考えている。

(中村委員) このような制度が市民に広く知られるようになれば、「自分も将来ホームタウンアーティストとして認定されるよう頑張ろう」と思う若い世代も増えるのではないかなと思う。子どもたちの目標となる制度として、大変良い取組だと感じた。

(金子(朋)副会長) ありがとうございます。ほかにご意見、ご質問はございますか。他に質問等が無いことから、本日の議題は以上とする。本日いただいたご意見を踏まえ、事務局において今後の検討を進めていただきたい。

以 上

令和 8 年度第 1 回相模原市文化振興審議会委員出欠席名簿
(令和 8 年 7 月 3 1 日開催)

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	井部 弥生	公益財団法人相模原市民文化財団事務局次長		出席
2	大森 悟	女子美術大学芸術学部美術学科教授	会長	欠席
3	奥山 泰三	相模原音楽家連盟会長		欠席
4	金子 朋沐枝	相模原市文化協会副会長	副会長	出席
5	金子 光史	フェース o f ワンダー主宰		出席
6	齋藤 祐子	公募委員		出席
7	杉森 順子	日本工業大学先進工学部情報メディア工学科教授		出席
8	鈴木 正彦	光と緑の美術館館長 総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会委員長		出席
9	田口 孝平	相模原市民俗芸能保存協会副会長		出席
10	友田 幸男	相模原市民音楽団体協会理事長		出席
11	中村 春日	相模原芸術家協会		出席
12	山崎 英明	公募委員		出席
13	和田 咲良	Super Open Studio NETWORK 代表		欠席

任期は令和 9 年 5 月 2 3 日まで